

東京都港区西麻布、都心の喧噪けんそうの中に大本山永平寺東京別院長谷寺ちようこくじがあります。こ
こは江戸の昔から観音さまのお寺として信仰を集めてきました。先の戦争で総てがらんの伽藍
を消失した後のち、昭和五十二年に現在の観音さまが再建されました。

「麻布大観音あさふだいがんのん」として親しまれ、この観音さまが祀まつられている観音堂がんのんどうには、朝夕た
くさんの方がお参りをされています。

この観音さまは高さが約十メートル、木造の観音さまとしては最大クラスのもので
す。十一の顔を持つ十一面観音さまで、右手には杖つえを、左手には蓮華れんげの花が入った花瓶かびん
を持ち、左足を少し前に出して、今にも歩き出しそうなお姿をされています。

「観音菩薩がんのんぼさつ」「観自在菩薩かんじざいぼさつ」と呼ばれる、観音さまとはどのような仏さまなのでしょ
うか？

観音さまは音を観察し、観みるように人々の苦しみきの声を聴くことができると言われ
ています。そのお姿にはさまざまなものがあります。共通するのは「観音がんのん」または
「観自在かんじざい」といわれるように、まさに今、苦しみ悩んでいる人々の声を自在きゆうざいに聴き、救済
しようとする仏さまなのです。

観音さまにはさまざまな苦しみや、願いが届けられます。

麻布大観音をお参りするあるご婦人のお話です。寝たきりのご主人の介護が長期間
にわたりとても大変で、その上最近では認知症の症状が出てきました。もう今では介
護しているのが奥さんであるということもわからなくなったようで、悔しいやら情け
ないやら。ある時は妻である自分をも忘れたことに苛立ち、ついご主人の頭をたた
いたりすることもある、後あとでとても落ち込んでしまったそうです。

ご主人が介護サービスを受けている間に外出をして、時々観音さまにお参りをし
ているとのこと。もちろん、お願いすることはご主人の回復と、安らかな日々を送りた
いということ。そんなある日、ご主人がこんなことをおっしゃったそうです。「どこの
どなたか存じませんが、こんな私の面倒めんどうをよく見ていただきありがとうございます。
本当にあなたは観音さまのような方です」と。

このご婦人はこの話を本当にうれしそうにお話し下さいました。ご主人の病状の回
復はかなわないことだったけれども、介護をしている自分を観音さまが救ってくれた
と感じているとのことでした。

今日も世界中で苦しみ悩んでいる人がいます。観音さまはその声に必ず耳を^{かたむ}傾け、どこにでも救いに来て下さいます。

^{な む だいひかんぜおん}
「南無大悲観世音。」

観音さまを信じる人々のこのお唱えの声は、必ず観音さまに届いているのです。